

「楓の風」らしい看護の取り組みを発信

在宅療養支援
楓の風

KAEDE TIMES 2025

在宅生活を支援するー私たちの試行錯誤



ー在宅を支える全てのみなさまへー

私たち、「楓の風」スタッフが、どのような想いで在宅支援をしているのかを、一人でも多くの方に知っていただきたい！と思い、

「楓の風」らしい取り組みをご紹介する、ニュースレターをはじめました！

One

Case 2

2025 Vol. 2

在宅療養の現場には、医療や看護への不信感から支援が入りにくいケースがあります。

今回ご紹介するのは、強い敵対心を示されながらも、チーム全体で「人物像」を積み重ねることで関係性を修復し、支援を続けられたNさんの事例です。

ケース

紹介初期から「訪問看護は信用できない」と強い敵対心…

がん末期で独居で暮らしておられるNさん。ご紹介当初から「訪問看護は信用できない」と拒否。接遇を徹底し、できるだけ丁寧なお声掛けを徹底したものの、逆に「慇懃無礼だ！」とご立腹…この、一見矛盾にも受け取れる言葉の背景になにがあるのか、楓の風スタッフはチームで関わる中で、丁寧にこの方の「隠された本音」に向き合うことにしました。

”言葉の背景にある本音”になにが隠されていたか？

幼少期にご両親との離別経験があり、単身で上京。

その喪失体験から、「見捨てられる不安」が強いのではないか？と考えました。

Nさんは、形式的な関係や建前としての対応ではなく、「本当に信頼できるか？」を試す手段として、強い発言があると分析。これを踏まえて、私たちは、

「丁寧さ」よりも、「親しみやすさ」を重視した関わり方にシフトしました。

ミドリガメとの関わり

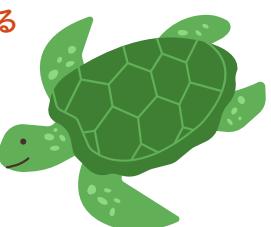
Nさんが愛情を注いでいた「同居人」は、**ミドリガメ**。

実は、闘病中に意気消沈していたときに、道端で動けなくなっていたミドリガメを拾ったことで、このミドリガメは**単なるペットではなく、「戦友」**となっていたことに気づきました。

「Nさんはご自身の境遇とこのミドリガメを重ね合わせているのではないか？」

カンファレンスで何度も議論を重ねた結果、**「わたしたちはNさんの大切にしているミドリガメも大切にして、尊重をする姿勢を見せよう」と決意。**

通常業務範囲ではあるものの、できる範囲でミドリガメのお世話を手伝うことにしたところ、急速にNさんとの信頼関係が深まりました。



往診医の先生方との連携

Nさんの対応に苦慮していたのは、往診クリニックの先生方も同じでした。Nさんは度々「医療者は信頼できない！」という思いを先生にぶつけてしまい、契約が締結できないことも…。

そこで私たちは、Nさんの発言を逐次ご報告すると同時に、**「その発言の背景や心理、希望も添えて伝えるように」工夫**をしました。

これにより、往診クリニックとNさんとの関係性も改善され、Nさんを支援するチームとして信頼関係の構築に繋がりました。

